

健康登山37:周辺の山19 (宇陀 貝ヶ平山・額井岳)

コース	玉立バス停 0.6km/11 平山 0.6km/21 1.3km/59	青竜寺登り口 1.2km/57 香酔山 1.9km/52 額井岳 1.1km/43	稜線道合流 0.6km/19 スズラン自生地 1.4km/23 十八神社 1.6km/23	貝ヶ平山 香酔峠登り口 天満台バス停
水平距離	10.3km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km		
水平換算距離	15.4km			
累計高低差	登り923m、下り967m			
標準歩行時間	5:08			
実績歩行時間	5:56			



山行報告

山行日 2008・6・05 (木) 天候 曇り時々薄日と小雨 参加者 6名

行動 榛原駅9:30 (タクシー) 玉立バス停9:52 青竜寺10:01 稜線道合流10:50 貝ヶ平山11:15 香酔山11:52~12:22 鞍部12:43 スズラン自生地13:22 香酔峠登り口13:55 額井岳15:22 十八神社16:05 天満台バス停16:48

記録

梅雨に入り天気は不安定で奈良地方は曇りで夜は雨になる予報だった。太平洋沿岸を通る低気圧の影響で東風が強くて寒かったので雨具で調整しながら歩いた。

榛原駅から玉立バス停までタクシーを利用してアプローチの時間を省いた。先月通った青竜寺横の登山口から50分ほど登ると鳥見山から来る稜線道と合流する。そこから15分で香酔山の分岐に着き、貝ヶ平山まで往復した。稜線は風が強くて寒く、クマザサ道なので防御も兼ねて貝ヶ平山で雨具をつけた。

香酔山は樹木に遮られて風もなく穏やかだったのでゆっくり昼食ができた。香酔山から東へ高度で100m下った鞍部に南北に林道が通っている。吐山スズラン自生地へ立ち寄り計画だったので稜線を歩く予定を変更して林道を北へ進み、途中から東へ下る道を見つけて自生地に出た。スズランは5月が最盛期ですすでに盛りを過ぎていた。

ここから一旦国道369号線に出て香酔峠へ登り、東側にある登り口を見つけてテープと踏み跡を外さないように登ると額井岳西峰に着く。西峰から境界尾根を鞍部まで下り、鞍部から南へ進むと十八神社から登って来る峠に出る、峠から額井岳山頂までは10分余で登れる。

山頂は南が開けていて展望台があり、大峰山系など南の山々がクッキリと見え、西には樹間から香酔山と貝ヶ平山が重なって大きく見えた。展望台で写真撮影をして峠まで引き返した。十八神社から峠を経て額井岳に登る道はよく整備されている。十八神社で雨具などを脱ぎ、服装を整えて天満台二丁目バス停まで下った。

榛原駅行きのバスを待っているときに雨が降り始めた。往復ともアプローチは歩かずに乗り物を利用したのは正解だった。榛原駅17:11発近鉄に乗り、19時前に京都駅に着いた。



周辺の山 (宇陀 貝ヶ平山、額井岳)



青竜寺横が  
登山口  
10:01



貝ヶ平山へ向う  
11:01



貝ヶ平山  
11:11



香酔山へ向う  
11:43



香酔山  
11:52



スズラン自生地  
13:23



吐山から見た  
額井岳  
13:42



額井岳展望台  
にて  
15:22



額井岳から  
香酔山と貝ヶ平山  
15:28



額井岳を背に  
バス停へ向う  
16:33

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：貝ヶ平山 香酔山 額井岳）

参考資料 / HP / 他より

玉立(とうだち/とびたち)：神武東征のおり<sup>かむやまといわれびこのみこと</sup>神日本磐余彦尊(神武天皇)が長髓彦との戦いで、この地に休んでおられたとき、付近の森から金の鷄(とび/シ)が飛び立った。

『不思議な事である、戦いはきっと勝つであろう』と仰せられた。

それで、金の鷄が飛び立ったので、この地を鷄立と言ったが、玉立と変わり、現在では玉立と書いて、『トビタチ/とうだち』と呼んでいます。

化石採取場：鳥見山から貝ガ平山への分岐を玉立方面に下ったところにあります。

第三紀砂岩層から満月貝、鮫の歯、巻貝などの化石が出るところでした。

今は乱掘され採集禁止になっています。

貝ガ平山：2等三角点あり。二千万年前は海の底だったといえます。貝の化石が多く発見されたので、「貝ヶ平山」の名がつけました。

香酔山：(香酔山は水源の山)

山中に俗称「臍の水」があり、傍らに龍神(水神)を祀る。この聖井に雨を祈れば必ず霊験があるというそうです。大和の地名の伝承論より

香酔(香水)は佛用語では、霊水(聖水)を表わし、また、大和三輪山の「狭井の水」は「神水(こうすい)」として神聖視されています。

香酔峠：伝説

)天武天皇(大海皇子)が東征されたとき、この峠でしばらく休まれたがあまり清らかな水が流れているので、兵士や軍馬に飲ませて、疲れを癒されたという。

今も道を横切る溪流が有り、そこを「香酔峠の駒進め」といっているとか。

)後醍醐天皇が笠置から吉野へ向かわれたとき、この峠にさしかかると、たいへんな芳香(スズラン)が漂い、駒を止めて休まれた。付き添った藤原藤房、季房もこの匂いに、酔わんばかりに嗅ぎ、この峠を「香酔峠」と称して語り合い、その名がついたという。

吐山(はやま)スズラン群落地：奈良市都祁吐山町

自生するスズランの南限地。かつては、都祁一円で豊富に自生していたそうです。

ユリ科多年草。5月下旬～6月初旬が見頃。  
近くに室生向淵(むこうぢ)スズラン群落も有り、室生大野口からバスでバス停スズラン口下車、徒歩20分、人は多いそうです。

スズラン:(鈴蘭)君影草ともいわれる。花ことば「幸福が訪れる」「純粹」  
フランスでは5月1日を、「スズランの日」と呼びかけ、好きな人や、世話になった人へ、園芸品種のスズランを贈り、贈られた人は、幸せになるといわれているそうです。

ただしスズランは、毒性があり、摂取した場合、嘔吐、頭痛、めまい、心不全、血圧低下、など起こり、重症の場合は死に至る。  
特に花や、根に多く含まれる有毒植物。  
スズランを用いたTVのサスペンスドラマが、放映されていたことも、ありました。

額井岳 : 別名大和富士と呼ばれています。額井火山群の主峰。  
山頂には水神を祀った祠が有り、干ばつの時には祠の前で火をたいて雨乞いの行事をするという。山頂展望台から吉野、大峰の山々を見渡すことができます。

この山は、山部の赤人にまつわる伝説でも知られており、榛原町山部三地区では地元の人々から「やまべさん」と呼ばれ、赤人の出身地と伝えられています。  
富士山を歌った赤人が晩年この地に帰り、終焉の地となり、大和富士の麓にその墓をのこしています。

【山部】とは大化前代、古代大和政権直轄の山林を守る事を職能とした「部民」。  
山部赤人は史書に名が無く、下級官吏であった思われています。  
後世、柿本人麻呂と共に歌聖と称されました。生没年不詳。

田子の浦に打ち出でて見れば白妙の 富士の高嶺に雪は降りつつ  
百人一首

田子之浦ゆ從い打出いで而みれば見者ましろ真白衣 不ふ尽じ能の高嶺に雪波は零家留

万葉集

【解釈】: わかりやすい古事記入門 佐藤寿哉著 より

山部赤人は、クニツ派の天武天皇に取り立てられたクニツ派(赤)の人である。天武帝の死とともに、時代が変わり、アマツ派(白)の持統天皇・文武天皇の時になった。山部赤人は、持統天皇の「白」の時代を、讃えなくては、なら

ないのである。

『この日本の国に、二つと無い不二の(唯一無二絶対の)高きところにまします(持統・文武)天皇<sup>スメラミコト</sup>の、偉大な治世に、われら天皇の多くの赤子たる国民は天皇に庇護されて裏を支え(多児の裏)天皇にひれ伏し、あおぎ見て、持統・文武天皇の「白」(アマツ派)が日本全国をおおっていく(ゆく=雪)御世を讃えます』

アマツ(天津)派 色の象徴は白 日本式タテ社会(内閣の集団指導システム)  
イザナギ王国 アマテラス王国 天智帝/ 弘文天皇 672 死 持統天皇  
『春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香久山』

「父の時代は厳しい冬の時代だった。天武帝はクニツ派なんだわ、わたしがアマツ派正統本流をまもらねば、赤い(クニツ派)花の咲き乱れる春・天武の時代は終わったのよ、一時の春は過ぎ去ったのよ。そしていま、白い(アマツ派)わたしの衣が、国をおおっているわたしの時代よ。常久に続く常緑のわたしの夏の時代よ」

クニツ(国津)派 色の象徴は赤 日本式横社会(一人の英雄に依存)  
イザナミ女王国 スサノヲ王国 天武帝/ 大津皇子 686 死

榛原五山七峰：鳥見山、貝ガ平山、香酔山、額井岳(西峰、主峰、東峰)戒場山を称し、これを縦走している人達がいるそうです。持統天皇の「白」の時代を、讃えなくてはならないのである。